ホーランエンヤ第２弾　≪解説と記念切手≫　　令和元年五月二十七日

福田　熹（八期生、Ｓ３２年卒）

船神事ホーランエンヤが終わり，YouTube では映像が流されています。次の解説をお読みいただいた上ご覧になれば、よろしいかと思います。なお、記念切手セットは悪用を防ぐため「みほん」と刻印をしています。あしからず。

ホーランエンヤとは？　松江城山稲荷神社式年神幸祭で日本三大船神事の一つ。

日本三大船神事とは、　①広島安芸の宮島管弦祭
②大阪天満天神祭り舟神事
③松江ホーランエンヤ

発祥経緯　天候不順だった１６４８年頃　松江城内の神社の神霊を船で現在の松江市東出雲町出雲郷の阿太加夜神社に運び、松江城石垣の崩落を祈祷することで無事に防いだとして当時名声を博した神主の松岡兵庫頭に五穀豊穣を祈祷させたのが始まり。

何時やるのか？　従来 12 年毎に開催。今回より式年行事に正式復活、10 年振りに。令和元年 5 月 18 日～26 日に 18 日城山稲荷神社で祈祷後、神霊渡御祭。松江宍道湖大橋→松江大橋→くにびき大橋→（だんだん大橋/中海大橋）→意宇橋→出雲郷橋の各エリアで参加地域の櫂伝馬船が各三回時計回りに巡幸（ご神体を載せた船の周りを回ること）。19～25 日は阿太加夜神社で厳粛なる祈祷神事、22 日は中日祭となる。26 日の阿太加夜神社→松江大橋→稲荷神社還元渡御の環御祭で終わる。なお次回は、令和 11 年になります。

誰がやるのか？　伝統式次で大橋川，朝酌　中海地域のうち　五大地として認定されている馬潟（発祥地　一番舟）、矢田、大井、福富、大海崎が往復とも同順序で巡幸。櫂伝馬船は往復で、都合３０回巡幸する。馬潟地区はその昔同地区の漁師が馬潟の沖で三角波の嵐により沈没寸前の神輿舟を「いの一番」に救助その功労で紫に染められた高貴なのぼり「い一」が許されている。

櫂伝馬踊り　船頭の踊り手は剣がい　歌舞伎風の装束で見えを切る。
船尾の踊り手は采振り　女性の姿であでやかに舞う。
神輿舟の危難を救った喜びを形で表現していると伝えられている。

＜記念切手セット＞　この４月４日から、日本三大船神事「ホーランエンヤ」を記念して、フレーム切手セットが、日本郵便株式会社中国支社から発売されました。販売セット総数は４０００セット。販売局は、松江、安来、隠岐などの７０局。１シート（８２円切手Ｘ１０枚)、価格１３５０円。